



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月30日
上場取引所 東

上場会社名 第一工業製薬株式会社
コード番号 4461 URL <https://www.dks-web.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山路 直貴
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 清水 伸二 TEL 075-277-2361
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 2024年12月6日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	35,431	21.3	2,474	—	2,579	—	1,256	—
2024年3月期中間期	29,200	△10.9	△449	—	△379	—	△478	—

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 2,456百万円 (178.1%) 2024年3月期中間期 883百万円 (15.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	131.25	—
2024年3月期中間期	△50.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	92,956	43,096	40.7	3,954.51
2024年3月期	94,537	41,297	38.9	3,839.89

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 37,867百万円 2024年3月期 36,747百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	20.00	—	45.00	65.00
2025年3月期	—	45.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	45.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,000	15.7	5,000	140.6	5,000	142.7	2,500	112.8	261.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	10,684,321株	2024年3月期	10,684,321株
2025年3月期中間期	1,108,487株	2024年3月期	1,114,373株
2025年3月期中間期	9,572,885株	2024年3月期中間期	9,563,893株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(収益認識関係)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が底堅く推移するなど、緩やかな回復基調となりました。一方、物価上昇や中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動における影響など、依然として不安定な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループを取り巻く環境も明るい兆しが見え、前期に比べて増収増益となりました。ハイエンドサーバ向け電子材料の売上が好調を維持したことや販売回復によって価格転嫁の効果が実現するなど利益に貢献しました。現経営計画の最終年度に相応しい実績を残し、次期中期経営計画「SMART 2030(仮)」につなげます。

当中間連結会計期間の業績としましては、すべてのセグメントが増収になりました。特に『機能材料』セグメントの光硬化樹脂材料が大幅に伸長したことから、売上高は354億31百万円(前年同期比21.3%増)となりました。

損益面につきましては、『機能材料』セグメントを中心として売上高が伸長したことにより、営業利益は24億74百万円(前年同期は4億49百万円の損失)、経常利益は25億79百万円(前年同期は3億79百万円の損失)、親会社株主に帰属する中間純利益は12億56百万円(前年同期は4億78百万円の損失)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

<界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて堅調に推移しました。

国内では、IT・電子用途、機械・金属用途、塗料・色材用途は堅調に推移し、石鹼・洗剤用途は大幅に伸長しました。

海外では、ゴム・プラスチック用途、塗料・色材用途は低調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は94億67百万円(前年同期比7.5%増)となりました。

営業利益は、売上高が堅調に推移したことにより、7億12百万円(前年同期比14.6%増)となりました。

<アメニティ材料>

アメニティ材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

国内では、ビニル系高分子材料はゴム・プラスチック用途が堅調に推移し、セルロース系高分子材料はエネルギー・環境用途が堅調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途が堅調に推移しました。

海外では、シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移し、食品用途は大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は45億93百万円(前年同期比15.0%増)となりました。

営業利益は、売上高が大幅に伸長したことにより、4億73百万円(前年同期は75百万円の利益)となりました。

<ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて堅調に推移しました。

公共工事に関連する土木用薬剤は大きく落ち込みましたが、フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は堅調に推移しました。機能性ウレタンはIT・電子用途が大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は44億94百万円(前年同期比2.3%増)、営業損失は1億34百万円(前年同期は1億96百万円の損失)となりました。

<機能材料>

機能材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

国内では、難燃剤はゴム・プラスチック用途が低調に推移しましたが、水系ウレタンは繊維用途が大幅に伸長し、光硬化樹脂材料はIT・電子用途が大幅に伸長しました。

海外では、光硬化樹脂材料はIT・電子用途が大幅に伸長し、難燃剤はゴム・プラスチック用途が大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は135億33百万円(前年同期比46.6%増)となりました。

営業利益は、売上高が大幅に伸長したことにより、19億83百万円(前年同期は4億7百万円の損失)となりました。

<電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

ディスプレイ用途のイオン液体は堅調に推移し、太陽電池用途の導電性ペーストは大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は31億46百万円（前年同期比20.4%増）となりました。

営業利益は、売上高が大幅に伸長したものの研究開発費を中心に営業経費がかさみ、2億14百万円の営業損失（前年同期は60百万円の損失）となりました。

<ライフサイエンス>

ライフサイエンスの売上高は、前年同期と比べ37百万円増加し、1億94百万円（前年同期比23.5%増）となりました。

医薬品添加物や天然素材からの抽出物の濃縮化、粉末化による健康食品等の受託事業は堅調に推移しました。

営業利益は、売上高が伸長したことに加え、営業経費が減少したことにより、3億46百万円の営業損失（前年同期は4億82百万円の損失）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は525億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億79百万円減少しました。これは主に、受取手形及び売掛金が4億72百万円増加したものの、現金及び預金が17億55百万円、電子記録債権が3億22百万円減少したことなどによるものです。固定資産は404億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億1百万円減少しました。これは主に投資有価証券が2億65百万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は929億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億81百万円減少しました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は250億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ75百万円減少しました。これは主に、賞与引当金が2億32百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が1億82百万円、短期借入金が1億3百万円減少したことなどによるものです。固定負債は247億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億5百万円減少しました。これは主に、長期借入金が32億6百万円減少したことなどによるものです。

この結果、負債合計は498億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億80百万円減少しました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は430億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億99百万円増加しました。これは主に、その他有価証券評価差額金が2億12百万円減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益12億56百万円及び剰余金の配当4億30百万円などにより利益剰余金が8億25百万円、為替換算調整勘定が5億6百万円、非支配株主持分が6億79百万円増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は40.7%（前連結会計年度末は38.9%）となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて17億74百万円減少し、141億72百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果、得られた資金は35億1百万円（前年同期は21億38百万円）となりました。これは、仕入債務の減少3億33百万円（前年同期は8億42百万円の減少）などにより資金が減少したことに対し、税金等調整前中間純利益25億51百万円（前年同期は4億19百万円の損失）、減価償却費16億4百万円（前年同期は16億3百万円）などにより資金が増加したことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果、使用した資金は9億97百万円（前年同期は10億9百万円）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出10億77百万円（前年同期は10億89百万円）などにより資金が減少したことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果、使用した資金は43億72百万円（前年同期は48億26百万円の収入）となりました。これは、長期借入金の返済34億43百万円（前年同期は27億3百万円）、配当金の支払い4億30百万円（前年同期は3億82百万円）などにより資金が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年8月28日付で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,126	14,371
受取手形及び売掛金	18,299	18,771
電子記録債権	2,364	2,041
商品及び製品	11,029	10,844
仕掛品	20	21
原材料及び貯蔵品	3,091	3,441
前払費用	403	578
その他	2,282	2,469
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	53,614	52,535
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	12,583	12,912
機械装置及び運搬具 (純額)	5,717	5,641
工具、器具及び備品 (純額)	939	1,121
土地	9,948	10,176
リース資産 (純額)	2,115	1,931
建設仮勘定	1,162	632
有形固定資産合計	32,467	32,416
無形固定資産		
無形固定資産	290	259
投資その他の資産		
投資有価証券	5,641	5,376
長期貸付金	10	10
長期前払費用	346	301
繰延税金資産	127	118
退職給付に係る資産	1,601	1,606
その他	437	333
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	8,164	7,745
固定資産合計	40,922	40,421
資産合計	94,537	92,956

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,979	11,796
電子記録債務	562	558
短期借入金	7,847	7,744
リース債務	516	502
未払費用	278	303
未払法人税等	361	489
未払事業所税	41	21
賞与引当金	823	1,056
その他	2,747	2,610
流動負債合計	25,159	25,083
固定負債		
社債	6,000	6,000
長期借入金	18,950	15,743
リース債務	1,823	1,609
繰延税金負債	880	996
退職給付に係る負債	85	78
資産除去債務	74	74
その他	266	273
固定負債合計	28,081	24,776
負債合計	53,240	49,859
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,895	8,895
資本剰余金	7,266	7,275
利益剰余金	19,851	20,677
自己株式	△2,462	△2,449
株主資本合計	33,551	34,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,670	1,458
為替換算調整勘定	1,073	1,579
退職給付に係る調整累計額	452	431
その他の包括利益累計額合計	3,196	3,469
非支配株主持分	4,549	5,228
純資産合計	41,297	43,096
負債純資産合計	94,537	92,956

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	29,200	35,431
売上原価	24,044	26,706
売上総利益	5,156	8,724
販売費及び一般管理費	5,605	6,250
営業利益又は営業損失(△)	△449	2,474
営業外収益		
受取利息	2	14
受取配当金	64	75
持分法による投資利益	0	22
為替差益	130	107
その他	94	80
営業外収益合計	293	301
営業外費用		
支払利息	123	121
社債利息	18	18
その他	81	56
営業外費用合計	223	196
経常利益又は経常損失(△)	△379	2,579
特別損失		
固定資産処分損	40	27
特別損失合計	40	27
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△419	2,551
法人税、住民税及び事業税	150	444
法人税等調整額	△235	234
法人税等合計	△85	679
中間純利益又は中間純損失(△)	△334	1,872
非支配株主に帰属する中間純利益	143	616
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△478	1,256

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失 (△)	△334	1,872
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	630	△212
為替換算調整勘定	639	797
退職給付に係る調整額	△22	△20
持分法適用会社に対する持分相当額	△29	19
その他の包括利益合計	1,217	583
中間包括利益	883	2,456
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	476	1,529
非支配株主に係る中間包括利益	406	927

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△419	2,551
減価償却費	1,603	1,604
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△67	△56
受取利息及び受取配当金	△67	△90
支払利息	123	121
社債利息	18	18
持分法による投資損益(△は益)	△0	△22
固定資産処分損	40	27
売上債権の増減額(△は増加)	△333	141
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,805	50
仕入債務の増減額(△は減少)	△842	△333
その他	384	△252
小計	2,244	3,758
利息及び配当金の受取額	64	97
利息の支払額	△142	△140
法人税等の支払額	△28	△213
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,138	3,501
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△78	△85
定期預金の払戻による収入	79	85
有形固定資産の取得による支出	△1,089	△1,077
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	—	1
関係会社出資金の払戻による収入	106	—
その他	△26	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,009	△997
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	341	—
長期借入れによる収入	7,903	—
長期借入金の返済による支出	△2,703	△3,443
リース債務の返済による支出	△228	△250
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△382	△430
非支配株主への配当金の支払額	△103	△248
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,826	△4,372
現金及び現金同等物に係る換算差額	171	94
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,127	△1,774
現金及び現金同等物の期首残高	9,051	15,947
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,179	14,172

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「改正会計基準」という。）等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収益	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
外部顧客への売上高	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	621	75	△196	△407	△60	△482	△449

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と中間連結損益計算書の営業損失は一致しております。

II 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収益	9,467	4,593	4,494	13,533	3,146	194	35,431
外部顧客への売上高	9,467	4,593	4,494	13,533	3,146	194	35,431
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,467	4,593	4,494	13,533	3,146	194	35,431
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	712	473	△134	1,983	△214	△346	2,474

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と中間連結損益計算書の営業利益は一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。